PARTYBOX 300

取扱説明書

安全上のご注意

- 使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠ 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

禁止（してはいけないこと）を示す記号です。	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
分解してはいけないことを示す記号です。	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。
濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。	電源コードをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。
触れてはいけないことを示す記号です。	

⚠ 警告

- **電源コードは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。**
  万一の場合、電源コードを容易に引き抜くためです。
- **付属品以外の電源コードは使用しない。**
  火災の原因になることがあります。
- **付属品の電源コードを他の機器に転用しない。**
  火災の原因になることがあります。
- **船舶などの直流（DC）電源には接続しない。**
  火災の原因になります。
- **電源コードを束ねた状態で本機を使用しない。**
  火災・感電の原因になります。
- **電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。**
  電源コードが破損して火災・感電の原因になります。
- **電源コードが破損した場合（芯線の露出や断線など）には、販売店または弊社サービスセンターに交換（有償）を依頼する。**
  そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
- **タコ足配線しない。**
  発熱により火災・感電の原因になります。
- **テーブルタップ（延長コード）を使用しない。**
  発熱により火災・感電の原因になります。
- **雷が鳴りはじめたら、電源コードには触れない。**
  感電の原因になります。
- **電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードを本機の下敷きにしない。**
  電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。
- **煙が出る場合、異常なにおいや音がする場合は、すぐに電源コードをコンセントから抜く。**
  煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社サービスセンターに修理を依頼してください。
- **水没させない。**
  故障の原因になります。
- **本機の内部に水などが入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社サービスセンターに点検を依頼する。**
  そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
- **本機の内部に異物を入れない。**
  万一、本機の内部に異物が入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社サービスセンターに点検をご依頼ください。
  そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- **アルコール・シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しない。**
  引火性溶剤が本機内部の電源部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- **分解や改造をしない。**
  感電の原因になります。
- **調理台や加湿器の近くなど油煙や湯気があたる場所に設置しない。**
  火災・感電の原因になることがあります。
- **直射日光があたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）に設置しない。**
  キャビネットや内部回路に悪影響が生じ、火災の原因になることがあります。
- **オーディオ機器を接続するときは、それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のケーブルを使用して接続する。**
  指定以外のケーブルを使用すると発熱し、やけどの原因になることがあります。

⚠ 注意

- **濡れた手でコンセントを抜き差ししない。**
  感電の原因になります。
- **長期間本機を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。**
  火災・感電の原因になります。
- **電源プラグを抜くときは、電源コードを引っぱらない。**
  電源コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。
- **電源プラグは、コンセントの根元まで確実に差し込む。**
  電源プラグを正しく差し込まずに本機を使用すると、火災や感電の原因になります。
- **ほこりや湿気の多い場所に設置しない。**
  ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となります。
- **不安定な場所や振動する場所に設置しない。**
  本機が落下や転倒して、けがの原因となります。
- **移動するときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。**
  接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。
- **薬物厳禁**
  ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また、接点復活剤を使用しない。外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

内蔵電池についてのご注意

内蔵電池の液が漏れたときは直ちに火気より離す。
漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因になります。また内蔵電池の液が目に入ったり体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因になります。
- 液が漏れたとき
  → 漏れた液に触れないように注意しながら、直ちに火気より離してください。乾いた布などで電池ケースの周りをよくふいてください。
- 液が目に入ったとき
  → 目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の診察を受けてください。
- 液が体や衣服についたとき
  → すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い流してください。

内蔵電池について以下のことに注意する。
本製品はリチウムイオン電池を使用しています。リチウムイオン電池にはリチウムが含まれており、誤った使用、取り扱い、廃棄により爆発する恐れがあります。
- 火の中に入れたり、加熱したりしないでください。また、直射日光のあたる場所、高温多湿の場所、車中等に放置しないでください。
- 使用中、保管時等に発熱したり、異臭を発したり、変色、変形、その他今までと異なる場合は使うのを止めてください。
- 電子レンジや高圧容器に入れないでください。
- 水、海水、ジュースなどで濡らさないでください。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。
- 所定の時間を超えても充電が終わらない場合は、充電を止めてください。
- 本書で指定している以外の方法で充電しないでください。

Bluetooth® に関するご注意

本機は、2.4GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、一般家庭でもいろいろな機器（電子レンジやコードレス電話など）で使用されています。以下のような場所で本機を使用する場合、送信 / 受信ができなくなることがあります。
- 2.4GHz を利用する無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります。）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります。）
- テレビにノイズが出た場合、本機（および本機対応製品）がテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。本機（および本機対応製品）をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

⚠ 注意
- 本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機は、全ての Bluetooth 機器との接続動作を保証するものではありません。
- 弊社ではお客様の接続機器に関する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために
- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 航空機内や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関などの指示に従ってください。

ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。
ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

電波法に基づく認証について
本機は電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の行為を行うと法律により罰せられることがあります。
- 本機を分解／改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

周波数について
この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として FHSS（周波数拡散方式）を採用し、想定される与干渉距離は約 10m です。

2.4 FH 1

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サービスセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サービスセンターへお問い合わせください。

付属品

お使いになる前に、以下の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

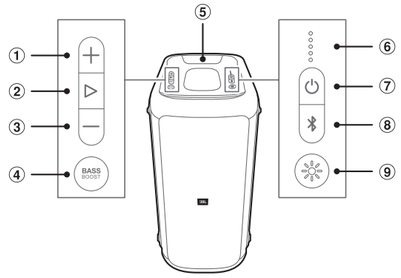
□ 電源コード

□ シガーソケットアダプタ

□ 日本語取扱説明書（本紙）
□ 多言語取扱説明書
□ 保証書（日本国内用）

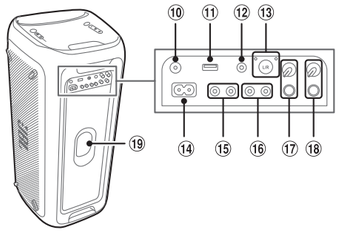
各部の名称

▶ 前面



① 音量＋ボタン
② 再生 / 一時停止ボタン
③ 音量－ボタン
④ BASS BOOST（低音強調）ボタン
⑤ 把手
⑥ バッテリーインジケーター
⑦ 電源ボタン（⏻）
⑧ Bluetooth ボタン（ᛒ）
⑨ 照明切り替えボタン

▶ 背面

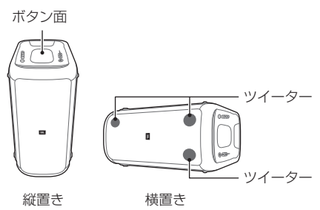


⑩ DC（直流電源）端子
⑪ USB 端子
⑫ AUX（オーディオ入力）端子
⑬ CHANNEL L/R(チャンネル左 / 右)ボタンと L(左)/ R(右)インジケーター
⑭ AC 電源入力端子
⑮ INPUT（入力）端子
⑯ OUTPUT（出力）端子
⑰ MIC（マイク）入力端子とゲイン調節つまみ
⑱ GUITAR（ギター）入力端子とゲイン調節つまみ
⑲ パッシブラジエーター

ご注意
本機の運搬中などに、パッシブラジエーターに触れないようご注意ください。手を触れると破損の原因になります。

本機の置きかた

本機は、縦置きおよび横置きでお使いいただけます。



ご注意
本機の重さに耐える、水平で安定した場所に置いてください。
また、本機の運搬は、思わぬけがや本機の故障、破損を防ぐため、必ず把手を持ち、落とすことのないよう慎重に行ってください。

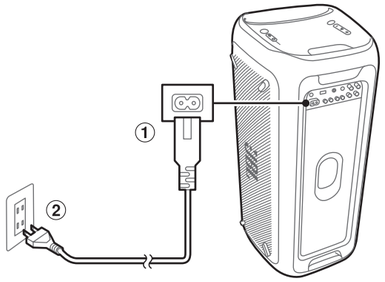
縦置きで使うとき
ボタンのある面を上にして置きます。

横置きで使うとき
ふたつのツイーターが上側になるように置きます。

電源に接続する

▶ AC 電源（コンセント）に接続する

付属の電源コードを使ってコンセントに接続します。



① 電源コードを本機背面の AC 電源入力端子に接続する。

② 電源コードをコンセントに接続する。

AC 電源に接続すると（内蔵電池の充電）

本機を AC 電源に接続すると、本機に内蔵の電池の充電が始まります。

充電中は

本機のバッテリーインジケーターがひとつずつ点灯していきます。
5 つのインジケーターがすべて点灯したら満充電の状態です。

電池残量が十分なとき

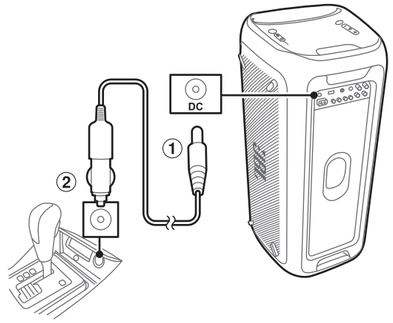
本機を AC 電源から外して、内蔵電池で使用することができます。

電池残量について

本機のバッテリーインジケーターで、おおよその電池残量を確認できます。ご使用中、何かボタンを押すとバッテリーインジケーターが点灯します。電池の消耗にともない、点灯するインジケーターの数が少なくなっていき、残量がわずかになると最後のインジケーターが赤色で点滅します。電池残量が少なくなったら AC 電源に接続してご使用ください。

▶ 車のシガーソケットに接続する

付属のシガーソケットアダプタを使用します。



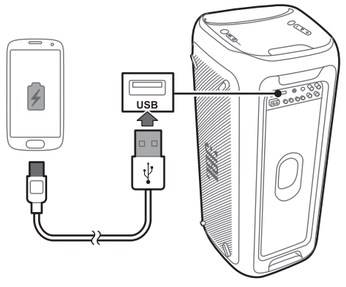
① シガーソケットアダプタを本機の DC（直流電源）端子に接続する。

② シガーソケットアダプタを車のシガーソケットに接続する。

ご注意
- 本機は 12V のシガーソケットにのみ対応しています。24V のシガーソケットではお使いいただけません。
- シガーソケットアダプタのコード部は運転を妨げないように引き回してください。
- シガーソケットに接続しているときは、本機の電池は充電されません。

▶ USB デバイスを充電する

本機の電池を電源として、スマートホンなど USB ケーブルを使って充電できるデバイスの充電ができます。
充電したいデバイスに対応した USB ケーブルをご用意ください。
USB ケーブルの一方の端子は Type A（本機側）とします。



① USB ケーブルの一方を本機の USB 端子に、もう一方をデバイスに接続する。

② デバイス側で充電量を確認し、必要なだけ充電が終わったら USB ケーブルを外す。

外部機器を接続する

本機には、再生用の音源およびミキシング用の音源として、以下の機器を接続することができます。

再生用の音源

- USB メモリーなどの USB 対応デバイス
- オーディオ出力として 3.5mm ステレオミニジャックを備えたオーディオ・ビデオ機器
- オーディオ出力として RCA L/R 端子を備えたオーディオ・ビデオ機器

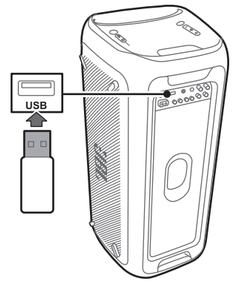
再生用の音源として Bluetooth 対応デバイスを使用するときは、はじめに本機とのペアリングが必要になります。
「Bluetooth 接続を行う」をご覧ください。

ミキシング用の音源

- マイク
- ギター

▶ USB 対応デバイスを接続する

本機の USB 端子に接続します。



再生可能なファイルシステムとデータ形式

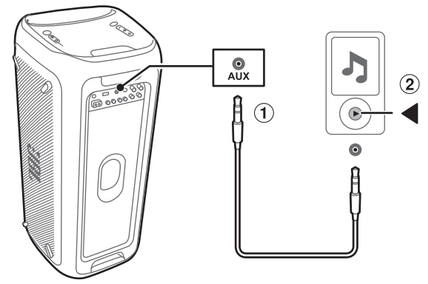
- 本機がサポートしているファイルシステムは FAT16 および FAT32 です。これ以外のファイルシステムの USB デバイスを再生することはできません。
- 再生可能なデータ形式は、mp3、wma、および wav です。

再生の制御

本機の音量＋ / －ボタンで音量を調節します。
本機の再生 / 一時停止ボタンで再生の制御ができます。

▶ ステレオミニのオーディオ出力を持つオーディオ・ビデオ機器を接続する

ステレオミニ−ステレオミニのオーディオケーブル（市販）を使って、本機の AUX（オーディオ入力）端子に接続します。

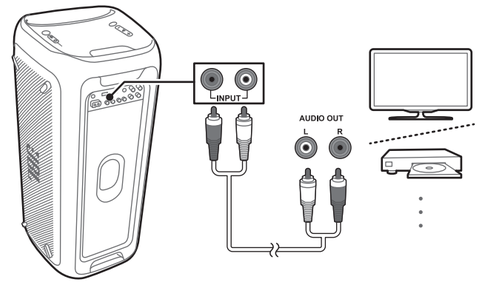


再生の制御

本機の音量＋ / －ボタンで音量を調節します。
本機の再生 / 一時停止ボタンや、機器側のボタンで再生の制御ができます。

▶ RCA オーディオ出力を持つオーディオ・ビデオ機器を接続する

RCA（L/R）− RCA（L/R）のオーディオケーブル（市販）を使って、本機の INPUT（入力）端子に接続します。



再生の制御

本機の音量＋ / －ボタンで音量を調節します。
本機の再生 / 一時 停止ボタンや、機器側のボタンで再生の制御ができます。

Bluetooth 接続を行う

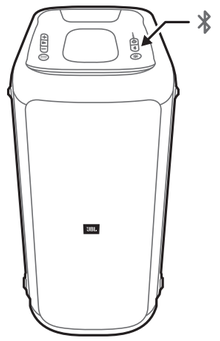
Bluetooth 機能を使ってワイヤレス再生を行うには、はじめに本機と Bluetooth 対応デバイスを認識させる「ペアリング」が必要となります。

▶ ペアリングを行う

以下の手順は一例です。詳細については、接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

① 電源ボタン（⏻）を押して、本機の電源を入れる。
電源ボタンが白色で点灯します。

② Bluetooth ボタン（ᛒ）を押す。
電子音が鳴り、Bluetooth ボタンが白色で点滅してペアリング設定状態になります。



③ デバイス側でペアリング操作を行い、登録 / 接続する。
ペアリングが完了すると電子音が鳴り、Bluetooth ボタンが白色で点灯します。

iPhone/iPod/iPad の場合：

① iPhone/iPod/iPad をペアリング設定状態にする。
「設定」→「Bluetooth」の順にタップした後、「Bluetooth」を「オフ」から「オン」にします。
Bluetooth に接続できるデバイスの一覧が表示されます。

② デバイスの一覧から「JBL PartyBox 300」を選択する。
接続が完了すると、デバイス上で「接続済み」と表示されます。

その他のデバイスの場合：

① ペアリング設定状態にする。
接続するデバイス側で、本機を検出可能な状態にします。お使いのデバイスの取扱説明書も併せてご覧ください。
（パスキーが必要な場合は「0000」と入力します。）
一部のデバイスでは、接続を確認するメッセージが表示されます。
Bluetooth ボタンが白色で点灯すると、ペアリングは完了です。

本機は一度ペアリングを行ったデバイスの情報を記憶していますので、ペアリングを行ったあとは、本機の電源を入れ、接続したいデバイスの Bluetooth をオンにするだけで Bluetooth 接続することができます。

ご注意
Bluetooth は約 10m までの距離で接続できますが、障害物（人体、金属、壁など）や電波状態によって接続有効範囲は変動します。

▶ Bluetooth 接続を解除するには

デバイス側で Bluetooth を「オフ」にし、接続を解除します。
本機の Bluetooth ボタンが消灯します。
あるいは、デバイス側で「JBL PartyBox 300」の接続登録を解除してください。

自動スタンバイモードについて
本機の電源がオンのとき、約 20 分音声入力がなく操作も行われない状態が続くと、自動的にスタンバイモードになります。スタンバイモードになると、電源ボタン（⏻）が橙色で点灯します。
スタンバイモードになったときは、本機の電源を入れてからデバイスを接続しなおし、デバイス上で音声の再生を始めてください。
なお、自動スタンバイモードを無効にすることはできません。

▶ 再生を制御する

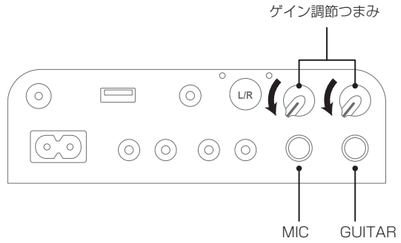
本機の音量＋ / －ボタンで音量を調節します。
本機の再生 / 一時停止ボタンや、機器側のボタンで再生の制御ができます。

ミキシング

本機は、ミキシング用の入力端子を 2 つ備えています。
• MIC（マイク）端子：マイクとのミキシング用
• GUITAR（ギター）端子：ギターとのミキシング用

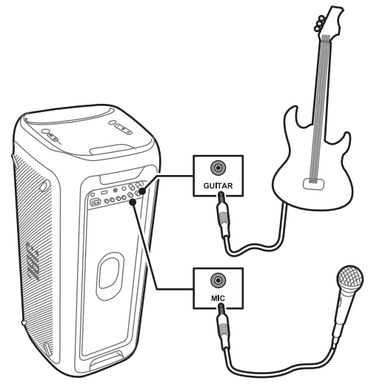
本機にマイクやギターを接続して、再生中の音源にマイク音声やギターの演奏音をミキシングすることができます。

ご注意
マイクやギターが思わぬ大音量でミキシングされないよう、対応するゲイン調節つまみを左に回して最小にしてからマイク、ギターを接続してください。



▶ 接続する

マイクおよびギターは、出力端子として 3.5mm ステレオミニプラグを持つものを接続することができます。
マイクは MIC（マイク）端子に、ギターは GUITAR（ギター）端子に接続します。



マイクおよびギターを接続して、両方の音声をミキシングすることもできます。

▶ ミキシングする

本機に接続した外部機器の音声を再生中、あるいは Bluetooth デバイスの音声をストリーミング再生中に、マイクを使用したりギターを演奏したりします。

マイクやギターの音量を調節する

マイクやギターの音量を大きくするには、それぞれに対応するゲイン調節つまみを右に回します。
音量を小さくするには、つまみを左に回します。

本機を 2 台使用してステレオ再生する

本機を 2 台使用し、それぞれを左チャンネル / 右チャンネル用に設定してステレオ再生することができます。

▶ 2 台の PARTYBOX 300 を接続する

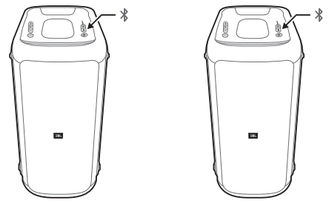
ステレオ再生の準備として、2 台の PARTYBOX 300 を以下のいずれかの方法で接続します。

Bluetooth で接続する

ご注意
2 台の PARTYBOX 300 の間隔は 10m 以内にしてください。
間に障害物（人体、金属、壁など）があると、接続可能な間隔が短くなります。

① それぞれの PARTYBOX 300 の電源をオンにする。

② それぞれの PARTYBOX 300 の Bluetooth ボタン（ᛒ）を同時に約 5 秒押し続ける。

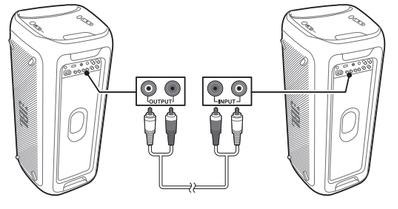


それぞれの PARTYBOX 300 がペアリング設定状態になり、自動的に Bluetooth 接続が完了します。

いずれかの PARTYBOX 300 が Bluetooth デバイスとペアリングされている場合、その PARTYBOX 300 が左チャンネルに、もう 1 台の PARTYBOX 300 が右チャンネルになります。
この設定は、変更することができます。

オーディオケーブルで接続する

市販の RCA（L/R）－ RCA（L/R）のオーディオケーブルを使用して、一方の PARTYBOX 300 の OUTPUT（出力）端子をもう一方の PARTYBOX 300 の INPUT（入力）端子に接続します。



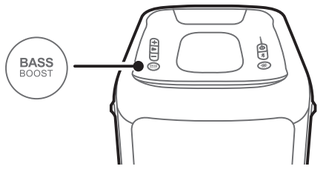
▶ 左右チャンネルの割り当て

いずれか 1 台の PARTYBOX 300 の CHANNEL L/R（チャンネル左 / 右）ボタンを押します。
押すごとに、左チャンネル→右チャンネル→ステレオ・・・の順に切り替わります。
• 左チャンネルの場合は L（左）インジケーターが、右チャンネルの場合は R（右）インジケーターが点灯します。
ステレオの場合は、ふたつのインジケーターが点灯します。
• チャンネル割り当てを切り替えると、もう 1 台のチャンネル割り当ても自動的に切り替わります。（一方が左チャンネルの場合はもう一方は右チャンネルに、一方が右チャンネルの場合はもう一方は左チャンネルに、一方がステレオの場合はもう一方もステレオになります。）
• ステレオに設定すると、それぞれの PARTYBOX 300 が単独でステレオモードになります。

低音を強調する

再生中の音声の低音を強調することができます。

BASS BOOST（低音強調）ボタンを押します。



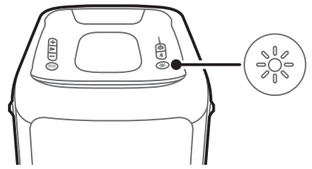
BASS BOOST ボタンが白色で点灯し、低音強調モードになります。

元の状態に戻すには、もう一度 BASS BOOST ボタンを押します。ボタンが消灯します。

前面の照明を切り替える

本機前面にある照明を、消灯あるいはいくつかの色での点灯に切り替えることができます。

照明切り替えボタンを押します。



押すごとに、照明の点灯または消灯状態が切り替わります。

トラブルシューティング

症状	解決法
本機の電源ボタンを押しても電源が入らない。	AC 電源または車のシガーソケットに接続していない場合は、内蔵電池が充電されているかご確認ください。
電源は入るが、音が出ない。	Bluetooth デバイスの音声を再生しようとしている場合は、デバイスとペアリングされているかご確認ください。
	オーディオケーブルで接続した機器を再生している場合、音量をご確認ください。
	Bluetooth デバイスやケーブルで接続した機器側で再生が一時停止になっていないかご確認ください。
	USB メモリーの音声データを再生しようとしている場合、USB メモリーのファイルシステムや音声データのファイル形式が本機に対応しているかどうかご確認ください。
音が歪む。	音量が上がりすぎている場合は音量を下げてください。
Bluetooth でペアリングできない。	お手持ちの機器が本機と対応しているかどうかご確認ください。
	別の機器と接続していないかご確認ください。本機は一度ペアリングを行った機器の情報を記憶しています。音楽を再生したい機器を再接続する場合は、現在ペアリングされている Bluetooth 機器をオフにし、本機の電源を入れ直してください。
マイクやギターのミキシング音が聞こえない。	マイクやギターのゲイン調節つまみが最小の位置（左に回しきった状態）になっていないかご確認ください。

主な仕様

電源	AC 100 ～ 240V、50/60Hz DC 12V、8A
消費電力	60W
スタンバイ時消費電力	Bluetooth 接続時：2W 未満 Bluetooth 非接続時：0.5W 未満
使用ユニット	ウーファー × 2 ツイーター × 3
スピーカーインピーダンス	4 Ω
最大出力	120W RMS
周波数特性	45Hz ～ 18kHz
S/N 比	65dBA
入力感度	AUX：500mV RMS RCA：250mV RMS
Bluetooth	Bluetooth 4.2
対応プロファイル	A2DP、AVRCP
伝送範囲	Class1、通信距離約 10m（障害がない場合）
USB ファイルシステム	FAT16、FAT32
対応ファイル形式	.mp3、.wma、.wav
電池	10.4Ah（リチウムイオン充電池、7.2V）
充電時間※	約 5 時間
連続再生時間※	最大約 18 時間
サイズ	幅 330mm x 高さ 688mm x 奥行 323mm
質量	約 15.4kg

※・電池は消耗品です。正しい方法であっても充電・放電を繰り返すと徐々に使用できる時間が短くなります。また充電・再生時間は使用環境により異なります。
・高温状態で保管すると、電池性能の劣化が始まります。直射日光があたらず、風通しの良い涼しい場所で保管してください。

▶ お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を薄めた液を少し含ませた布でふき、その後乾いた布でふき取ってください。

▶ 本機の廃棄について

Li-ion

本機は内蔵電池として充電式リチウムイオン電池を使用しています。
リチウムイオン電池にはリチウムが含まれており、誤った使用、取り扱い、廃棄により爆発する危険性があります。
本機に内蔵されているリチウムイオン電池はリサイクルが可能です。本機がご不要となりましたら、一般ゴミなどと一緒に廃棄せず、弊社アフターサポートの窓口へご連絡ください。

ご注意

感電などの危険があるため、本機を絶対に分解しないでください。

▶ HARMAN Owners' Club

この度は JBL 製品をご購入いただき誠にありがとうございます。
HARMAN Owners' Club（ハーマンオーナーズクラブ）は、ハーマンインターナショナル取り扱い製品ご愛用者のための会員プログラムです。
会員様に向けたさまざまな特典やサービスをお届けします。

https://www.harman-ownersclub.jp

このアドレスからアクセスしてください。
携帯電話 (フィーチャーホン) からはご登録できませんのでご注意ください。

▶ 製品に関するお問い合わせ

http://jbl.harman-japan.co.jp/support/

メールでのお問い合わせは、上記 URL よりお問い合わせフォームをご利用ください。

Tel : 0570-550-465（ナビダイヤル）

受付時間 : 土日・祝日・年末年始を除く、平日 9:30 ～ 17:30

Bluetooth®

・Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。
・Harman International Industries, Incorporated は、これら商標を使用する許可を受けています。
・JBL は米国およびその他の国々における Harman International Industries, Incorporated の登録商標です。

HARMAN

ハーマンインターナショナル株式会社

© 2018 Harman International Japan Co., Ltd. All rights reserved.

XXXXXXXX